

4. 教育内容・方法・成果

4－（１）教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

1. 現状の説明

（１）教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

＜1＞大学全体

【教育目標の明示】

本学の教育目標は、学則第1条に定められている。学則第1条は次のとおりである。『本学は、（中略）キリスト教の精神にしたがい、円満な人格を涵養し、国際的視野に立って建設的に、かつ責任をもって生活し得る女性を育成することを目的とする。』

また、学則第3条には『本学の性格は、リベラル・アーツ（Liberal Arts）の大学として規定する。』と定められている。

本学の教育理念である「キリスト教主義教育」「国際主義教育」「リベラル・アーツ教育」は、まさしく本学学則第1条及び第3条に規定する本学の教育目標を達成するためのものである。

【学位授与方針制定と明示】

教育目標に基づき、2011年11月16日の全学教授会で学位授与方針が承認されている。本学学部の学位授与方針は、学部全体の学位授与方針のもとに各学部の学科・専攻ごとの学位授与方針を定めるという構成となっている。本学大学院の学位授与方針は、2011年7月1日の大学院委員会で承認されている。これらの学位授与方針は、大学ホームページや大学案内で公表されている他、履修要項で学生、教職員に周知されている。

なお、音楽専攻科については、学位授与方針に代わるものとして、修了証書授与の方針が定められ、同様に周知されている（4(1)-1 p.160）。

本学学部全体のディプロマポリシー（学位授与方針）

同志社女子大学は、建学の精神に基づき、キリスト教主義教育、国際主義教育およびリベラル・アーツ教育の3つの教育理念により、良心をもって知識、能力を運用し、社会の礎となって活躍する自立した女性を育成する。本学は、次に掲げる人物で、かつ各学部学科のディプロマポリシーに定める基準に到達し所定の卒業要件を満たした者に学士の学位を授与する。

1. キリスト教主義教育により、隣人を愛し他者を思いやることを持ち、世の光・地の塩となって他者および社会に奉仕することのできる人物。
2. 国際主義教育により、異文化を尊重するとともに、言語や民族の違いを越えてグローバルな視点に立って国際社会で主体的に行動できる人物。
3. リベラル・アーツ教育により、深い学術的知識、専門的技能と幅広い教養を持ち、学士にふさわしい分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理能力、自己実現力などの基礎的・汎用的能力を持った人物。

4 (1) 教育目標、学位授与方針、 教育課程の編成・実施方針

【修得すべき学習成果の明示：DWCLA10】

学部全体の学位授与方針の中に掲げられている基礎的・汎用的能力については、『同志社女子大学の学生に卒業までに身につけてもらいたい10の力』として、本学学生、教職員、受験生等に対して分かりやすい表現で示されている。これらの基礎的・汎用的能力については、同志社女子大学の英語名である Doshisha Women's College of Liberal Arts にちなんで『DWCLA10』として大学ホームページ（4(1)-7）や大学案内（4(1)-8 p. 18）で公表され、各学部の履修要項（4(1)-1 p. 40～41、4(1)-2 p. 38～39、4(1)-3 p. 38～39、4(1)-4 p. 38～39、4(1)-5 p. 38～39）にも明記されている。

本学のすべての科目のシラバスには、その科目を履修した結果として身につけることが期待されるDWCLA10の能力が原則として3つ以上明記されている。このように、学位授与方針の中に掲げられている基礎的・汎用的能力については、広く周知され、実践される仕組みができあがっている。

〈2〉学芸学部

学芸学部では、教育目標に基づき、学部全体の学位授与方針のもとに学科・専攻ごとの学位授与方針を明示している（4(1)-1 p. 36～38）。

〈3〉現代社会学部

現代社会学部では、教育目標に基づき、学部全体の学位授与方針のもとに学科ごとの学位授与方針を明示している（4(1)-2 p. 36～37）。

〈4〉薬学部

薬学部では、教育目標に基づき、学部全体の学位授与方針のもとに学位授与方針を明示している（4(1)-3 p. 36～37）。

〈5〉表象文化学部

表象文化学部では、教育目標に基づき、学部全体の学位授与方針のもとに学科ごとの学位授与方針を明示している（4(1)-4 p. 36）。

〈6〉生活科学部

生活科学部では、教育目標に基づき、学部全体の学位授与方針のもとに学科・専攻ごとの学位授与方針を明示している（4(1)-5 p. 36～37）。

〈7〉文学研究科

文学研究科では、人材養成目的に基づき、専攻ごとに学位授与方針を明示している（4(1)-6 p. 38～43）。

〈8〉国際社会システム研究科

国際社会システム研究科では、人材養成目的に基づき、学位授与方針を明示している（4(1)-6 p. 43～44）。

〈9〉薬学研究科

薬学研究科では、人材養成目的に基づき、学位授与方針を明示している（4(1)-6 p. 44～45）。

〈10〉生活科学研究科

生活科学研究科では、人材養成目的に基づき、専攻ごとに学位授与方針を明示している（4(1)-6 p. 46～48）。

（2）教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

〈1〉大学全体

【教育課程の編成・実施方針の制定と明示】

教育目標に基づき、学位授与方針で示した能力を持った人物を育成するために、教育課程の編成・実施方針が学位授与方針と同時に定められている。学部教育課程の編成・実施方針も学位授与方針と同様に、学部全体の教育課程の編成・実施方針のもとに各学部の学科・専攻ごとの教育課程の編成・実施方針が定められている。

本学大学院の教育課程の編成・実施方針も、学位授与方針と同時に定められている。また、音楽専攻科でも教育課程の編成・実施方針が定められている（4(1)-1 p. 160）。

これらの教育課程の編成・実施方針は、大学ホームページや大学案内で公表され、かつ履修要項で学生、教職員に周知されている。

本学学部全体のカリキュラムポリシー（教育課程編成・運営の方針）

同志社女子大学のカリキュラムは、ディプロマポリシーに掲げる能力や資質を涵養するとともに、学生一人ひとりの能力を最大限に引き出し、それぞれの興味や関心に従って自己の進路を切り開く力をつけることができるよう編成されている。

全学部学科に「共通学芸科目」「外国語科目」「スポーツ・健康科目」の各科目区分が設けられ、多様な分野の科目や外国語運用能力を身につけるための科目が設置されている。これらの科目の学習により幅広い教養と国際社会で活躍できる基礎的能力を身につけるとともに、専門分野の学習をよりいっそう深めるための基礎を築くことができるようになっていく。

さらにより広い視野を拓くため、他学部他学科の科目や他大学の科目を履修する機会が豊富に用意され、国内外の協定大学等での学習の機会も設けられている。

また、「キリスト教・同志社関係科目」区分が全学部学科に設けられ、本学の建学の精神に触れる機会を共有している。

各学部学科の教育は、本学の教育理念であるキリスト教主義教育、国際主義教育、リベラル・アーツ教育を踏まえて展開されている。専門分野のカリキュラムは、「基礎教育科目」や「入門・概論科目」などから「応用・各論科目」などへと段階的、発展的に科目区分が設けられ、最終的には「卒業研究」や「卒業論文」につながるよう編成されている。

〈2〉学芸学部

4 (1) 教育目標、学位授与方針、 教育課程の編成・実施方針

学芸学部では、教育目標に基づき、学位授与方針で示した能力を持った人物を育成するために、学部全体の教育課程の編成・実施方針のもとに学科・専攻ごとの教育課程の編成・実施方針を明示している (4(1)-1 p. 36～38)。

〈3〉現代社会学部

現代社会学部では、教育目標に基づき、学位授与方針で示した能力を持った人物を育成するために、学部全体の教育課程の編成・実施方針のもとに学科ごとの教育課程の編成・実施方針を明示している (4(1)-2 p. 36～37)。

〈4〉薬学部

薬学部では、教育目標に基づき、学位授与方針で示した能力を持った人物を育成するために、教育課程の編成・実施方針を明示している (4(1)-3 p. 36～37)。

〈5〉表象文化学部

表象文化学部では、教育目標に基づき、学位授与方針で示した能力を持った人物を育成するために、学部全体の教育課程の編成・実施方針のもとに学科ごとの教育課程の編成・実施方針を明示している (4(1)-4 p. 36～37)。

〈6〉生活科学部

生活科学部では、教育目標に基づき、学位授与方針で示した能力を持った人物を育成するために、学部全体の教育課程の編成・実施方針のもとに学科・専攻ごとの教育課程の編成・実施方針を明示している (4(1)-5 p. 36～37)。

〈7〉文学研究科

文学研究科では、人材養成目的に基づき、学位授与方針で示した能力を持った人物を育成するために、専攻ごとに教育課程の編成・実施方針を明示している (4(1)-6 p. 38～43)。

〈8〉国際社会システム研究科

国際社会システム研究科では、人材養成目的に基づき、学位授与方針で示した能力を持った人物を育成するために、教育課程の編成・実施方針を明示している (4(1)-6 p. 43～44)。

〈9〉薬学研究科

薬学研究科では、人材養成目的に基づき、学位授与方針で示した能力を持った人物を育成するために、教育課程の編成・実施方針を明示している (4(1)-6 p. 44～45)。

〈10〉生活科学研究科

生活科学研究科では、人材養成目的に基づき、学位授与方針で示した能力を持った人物を育成するために、専攻ごとに教育課程の編成・実施方針を明示している (4(1)-6 p. 46～48)。

(3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

〈1〉大学全体

【公表・周知】

本学の建学の精神や教育理念と同様に、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、大学案内（4(1)-8 p.18）および大学ホームページ（4(1)-9）で社会に対して公表されており、かつ、各学部・大学院の履修要項に明記され学生・教職員に周知されている。

〈2〉学芸学部

学芸学部各学科の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、『学芸学部履修要項・シラバス』（4(1)-1 p. 36～38、p. 44、p. 120、p. 140）、大学ホームページ（4(1)-10、11、12）をとおして、大学構成員ならびに受験生を含む社会一般に対して周知・公表している。さらに、入試説明会やオープンキャンパスにおいても受験生に対して周知するよう努めている。

〈3〉現代社会学部

現代社会学部各学科の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、『現代社会学部履修要項』（4(1)-2 p. 36～37、p. 42、p. 68）、大学ホームページ（4(1)-13、14）をとおして、大学構成員ならびに受験生を含む社会一般に対して周知・公表している。

〈4〉薬学部

薬学部の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、『薬学部履修要項・シラバス』（4(1)-3 p. 36～37、p. 42）、大学ホームページ（4(1)-15）をとおして、大学構成員ならびに受験生を含む社会一般に対して周知・公表している。とりわけ、新入生については、新入生オリエンテーションの中で詳しく説明している。

〈5〉表象文化学部

表象文化学部各学科の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、『表象文化学部履修要項』（4(1)-4 p. 36～37、p. 42、p. 52）および大学ホームページ（4(1)-16、17）をとおして、大学構成員ならびに受験生を含む社会一般に対して周知・公表している。さらに入試説明会やオープンキャンパスにおいても受験生に対して周知している。

〈6〉生活科学部

生活科学部各学科の学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は以下のとおりである。

人間生活学科の学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は『生活科学部履修要項・シラバス』（4(1)-5 p. 36、p. 42）および大学ホームページ（4(1)-18）をとおして学生や教職員をはじめ受験生を含む社会一般に向けて公表している。さらに、入試説明会やオープンキャンパスにおいても受験生に対して周知するよう努めている。

食物栄養科学科各専攻の学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は、『生活科学部履修要項・シラバス』（4(1)-5 p. 36～37、p. 52、p. 62）に明記し、全学生・教職員に周知して

4 (1) 教育目標、学位授与方針、 教育課程の編成・実施方針

いる。また、大学ホームページ (4(1)-19) や『大学案内』 (4(1)-8 p. 103～112)、『食物栄養科学科パンフレット』 (4(1)-20) では、これらの表現をより軟らかくし専門外の人にもわかりやすくした形で記載し、社会に公表している。入試説明会やオープンキャンパスにおいても受験生に対して周知している。

〈7〉文学研究科

文学研究科の教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針は、ホームページおよび『大学院履修要項・時間割表・シラバス』 (4(1)-6 p. 38～43) および大学ホームページ (4(1)-21、22、23) をとおして公表している。教育情報の公表に関しては、学習目標を明確にすることを目的とした教育活動の一環として位置づけ、在学生や受験生に対するわかりやすさを最重要視している。

〈8〉国際社会システム研究科

国際社会システム研究科の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、『大学院履修要項・時間割表・シラバス』 (4(1)-6 p. 43～44) および大学ホームページ (4(1)-24) をとおして、大学構成員ならびに受験生を含む社会一般に対して周知・公表している。

〈9〉薬学研究科

薬学研究科の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、『大学院履修要項・時間割表・シラバス』 (4(1)-6 p. 44～45) および大学ホームページ (4(1)-25) をとおして、大学構成員ならびに受験生を含む社会一般に対して周知・公表している。

〈10〉生活科学研究科

生活科学研究科の各専攻の学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は以下のとおりである。

生活デザイン専攻の学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は、『大学院履修要項・時間割表・シラバス』 (4(1)-6 p. 45～46) に記載することによって明示し、学生・教職員に周知している。また、大学ホームページ (4(1)-26) などを通し、受験生を含む社会一般に向けて公表している。

食物栄養科学専攻の食物栄養科学コースと臨床栄養学コースの学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は、『大学院履修要項・時間割表・シラバス』 (4(1)-6 p. 46～48) および大学ホームページ (4(1)-27) に明記し、学生・教職員に周知している。また、表現をより柔らかくして、『大学案内』 (4(1)-8 p. 117) に記載し、社会に公表している。

（４）教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

〈1〉大学全体

【定期的検証】

学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が定められ実際に運用が開始されたのは2012年度からであり、まだあまり時間が経過していない。特に本学学部全体の学位授与方針

は学則に定められている教育目標や人材養成の目的に基づくものであり頻繁に変更されるべきものではないため、現在のところは見直しを行っていない。

教育課程の編成・実施方針については、カリキュラム改正と同時に必要に応じて常に適切性を検証すべきものである。表象文化学部英語英文学科のカリキュラムが、2014年度入学生から改正されることが決まった昨年度末には、同時に同学科の教育課程の編成・実施方針も一部修正された。その他、軽微なカリキュラム改正を実施した学部学科では、教育課程の編成・実施方針を検証したが、修正の必要がないと認められたため今のところ変更していない。

＜２＞学芸学部

学芸学部の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性については、毎年、各学科で次年度の授業計画およびカリキュラム編成、開講クラス数の確認や見直しをするのに合わせて、さらには次年度の『学芸学部履修要項・シラバス』の内容を検討する際に、検証、確認しており、その結果を学芸学部として共有している。

（音楽学科）

音楽学科では、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーについては、学科教員会議において翌年度のカリキュラムを設定する際に、カリキュラムの編成・実施の実態に合わせて検証を行っている。

（情報メディア学科）

情報メディア学科では、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーについては、学科教員会議において翌年度のカリキュラムを設定する際に、カリキュラムの編成・実施の実態に合わせて検証を行っている。

（国際教養学科）

国際教養学科では、毎年学期末に２回、教員がカリキュラムや授業内容に関する問題について議論する機会を設け、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について集中討議を行い、その場で検証を行っている。その結果を、次年度以降の授業計画やカリキュラム改正に反映させることにより、常に教育課程の改善を図っている。

＜３＞現代社会学部

現代社会学部では、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針について、学部長、学科主任、教務主任および若干名からなる運営委員会とカリキュラム委員会を定期的に行い、検証を行っている。具体的には、カリキュラムの問題、共通に行う基礎演習などの適正化、応用演習や卒業研究のあり方など、具体的な事項について話し合いをもっている。

（社会システム学科）

社会システム学科では、学部・学科において学部長、学科主任、教務主任および若干名からなる運営委員会とカリキュラム委員会を定期的に行い、検証を行っている。そこでは、カリキュラムの問題、共通に行う基礎演習などの適正化、応用演習や卒業研究のあり方、新任人事を含めた将来構想などについて、共通認識の土壌を形成するとともに、問題についてオープンに話し合っている。

（現代こども学科）

4 (1) 教育目標、学位授与方針、 教育課程の編成・実施方針

学部・学科において学部長、学科主任、教務主任および若干名からなる運営委員会とカリキュラム委員会を定期的に開催している。そこでは、カリキュラムの問題、共通に行う基礎演習などの適正化、応用演習や卒業研究のあり方などをオープンに話し合っている。

〈4〉薬学部

薬学部では、2006年度からの6年制薬学教育の導入に伴い、一般社団法人薬学教育評価機構による薬学教育評価を7年毎に受けることになっている。本学薬学部では、学部長・学科主任・教務主任・基礎薬学推進委員長、臨床薬学推進委員長からなる運営委員会において教育目標や教育課程の編成方針、人事を含めた将来構想を議論しているが、第三者評価の機会毎に全学的なワーキンググループを組織し、理念・目的等を全面的に見直すことにしている。次回の第三者評価は、2014年度に受けることになっており、ワーキンググループにおいて現在見直し作業中である。

〈5〉表象文化学部

表象文化学部では、学則の変更、入試ガイドの校正、履修要項の校正、ホームページの更新を行うにあたり、必要に応じ学部教員会議、運営委員会でディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを確認・検証している。

表象文化学部では、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針について、学部長、学科主任、教務主任および若干名からなる運営委員会とカリキュラム委員会を定期的に開催し、検証を行っている。具体的には、カリキュラムの問題、共通に行う基礎演習などの適正化、応用演習や卒業研究のあり方など、具体的な事項について話し合いをもっている。

(英語英文学科)

英語英文学科では、教育目標と教育課程の編成については毎年、学科でカリキュラム委員会や学科会議において見直しを行っている。例えばTOEICのスコアの推移を見ながら、スキル科目の授業内容をより一層充実したものにするように修正したり、学生に留学を奨励するためにTOEFLの授業を新たに選択科目に加えたり、常に検証をおこなっている。

また、2014年度入学生からカリキュラムが改正されることが決まった2012年度には、同時に教育課程の編成・実施方針についても一部改正を行った。

(日本語日本文学科)

日本語日本文学科では、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、各学科懇談会、学部教員会議において、毎年の検討課題作成時や次年度の開講科目に関する原案を作成する際等に定期的に検証している。特に、カリキュラムの改変などが必要と認められる場合には、学位授与方針と教育課程の編成・実施方針についても確認・検証を合わせて行っている。

〈6〉生活科学部

生活科学部では、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、各学科懇談会、学部教員会議において、毎年の検討課題作成時や次年度の開講科目に関する原案を作成する際等に定期的に検証している。特に、カリキュラムの改正などが必要と認められる場合には、学位授与方針と教育課程の編成・実施方針についても確認・検証を合わせ

で行っている。

食物栄養科学科では、法改正や専任教員の入れ替え時に各専攻でカリキュラムとの整合性を点検しており、その際に、学位授与方針と教育課程の編成・実施方針についても検証し、変更があれば学科懇談会にて協議している。

＜7＞文学研究科

文学研究科の各専攻では、毎年検討課題の作成及び次年度開講科目数、カリキュラム改正案の検討作業などを通し、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っている。

＜8＞国際社会システム研究科

国際社会システム研究科では、国際社会システム専攻の学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を、研究科委員会において定期的に検証を行っている。

＜9＞薬学研究科

本学大学院研究科の諸問題に関しては、全学の研究科を統括する研究科委員会が定期的で開催され、討議される。研究科の目標の適切性についてはその議題の中に含まれる。薬学系研究科に関しては、未だ完成年度に至っておらず、本格的な検証を行うには時期尚早である。

＜10＞生活科学研究科

生活科学研究科の各専攻では、毎年検討課題の作成及び次年度開講科目数、カリキュラム改正案の検討作業などを通し、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っている。

2. 点検・評価

●基準4「教育内容・方法・成果」

（1）教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の充足状況

学則に明記された教育目標に基づき、学位授与方針、教育課程編成・実施方針を定め、学内外に対して周知及び公表を行っている。学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が定められ、実際に運用が開始されたのは2012年度からであり、まだあまり時が経過していない。特に、本学学部全体の学位授与方針は学則に定められている教育目標や人材養成の目的に基づくものであり頻繁に変更されるべきものではないため、現在のところは見直しを行っていない。教育課程の編成・実施方針については、カリキュラム改正等と同時に必要に応じて常に適切性を検証し、修正を行っている。

よって、同基準を充足している。

①効果が上がっている事項

＜1＞大学全体

【学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の周知】

4 (1) 教育目標、学位授与方針、 教育課程の編成・実施方針

本学の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、ホームページで社会に公表され、履修要項で学生・教職員等に周知されている。これらの方針は、従来から本学が3つの教育理念のもとに実施してきた教育が文言化されたものであるため、既に関係者に十分に周知され理解されている。

2012年12月に実施された本学在学生アンケートには、「本学の建学の理念（キリスト教主義/国際主義/リベラル・アーツ）の内容についてどの程度知っていますか。」という質問項目があり、全体では「とてもよく知っている」「よく知っている」「少し知っている」の合計が76.9%となっている。「少し知っている」という回答が52%と多く、「あまり知らない」が20.2%となっているが、質問がやや漠然としていたため控えめな回答が多かったものと思われる（4(1)-28 p.8）。

これは学位授与方針や教育課程の編成・実施方針の認知度を直接に質問したものではないが、学位授与方針や教育課程の編成・実施方針のもととなる本学の教育理念については、その認知度にはバラツキがあるものの、多くの学生が知っていることが明らかになっている。

【DWCLA10 の周知】

学位授与方針の中の基礎的・汎用的能力を分かりやすく表現しているDWCLA10については、専任教員は言うまでもなくすべての嘱託講師にも広く周知されている。

DWCLA10が実際に公表されたのは2012年度からであるが、2012年度の在学生アンケートで、さっそくDWCLA10について「これまでの大学生活の中で「DWCLA10」がどの程度身についたと実感できますか」という項目で質問がなされた。その結果、10の力の獲得について「とてもよく実感する」「よく実感する」の合計の平均は38.5%であった（4(1)-28 p.14）。

DWCLA10が公表されてから実質的には1学期間しか経過していない時点でのアンケートであることを考慮すると予想以上に多くの学生が「実感」していることが分かる。

なお、2013年度からは授業評価アンケートに個々の科目の履修によってそのような能力が身についたと思いますか、というより踏み込んだ質問内容が加わることで決まっている。

〈3〉現代社会学部

現代社会学部では、「1. 現状の説明」の記述のとおり、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針をそれぞれのホームページを通して社会に公表し、学生に対しては学部履修要項に明記し、周知を徹底できている。

〈4〉薬学部

大学全体の評価に加えて、薬学部は2014年度に一般社団法人薬学教育評価機構の薬学教育評価を受けることになっている。多くの大学は単科大学あるいは薬学部の内部で対応をしているが、本学の場合、全学的な組織によってこれを行っており、より客観的な評価が可能となっている。

〈7〉文学研究科

学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は社会に公表され、学生に対しても大学院の

履修要項を通して周知を徹底している。

＜9＞薬学研究科

大学全体の方針とおり、人材養成目的に基づき学位授与方針を明示している。

＜10＞生活科学研究科

生活科学研究科の各専攻では、学部学生に対して、特別推薦入学試験説明会において教育課程の編成・実施方針の特徴について説明している。また、高校生に対しても、学部・学科との関連で、学びの継続性という視点から、教育課程の編成・実施方針の特徴についてオープンキャンパスで説明している。

②改善すべき事項

＜1＞大学全体

【共通教育部分の教育課程の編成・実施方針の必要性】

本学全体の教育課程の編成・実施方針や各学部学科、大学院の教育課程の編成・実施方針は公表され、学生・教職員に周知されているが、本学のいわゆる全学共通科目（共通学芸科目区分、キリスト教・同志社関係科目区分、外国語科目区分、スポーツ・健康科目区分等）に関する教育課程の編成・実施方針は定められていない。

＜6＞生活科学部

人間生活学科では、教育課程の実施方針に関して、一層、明確な公表が期待される。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

＜1＞大学全体

【学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の周知】

本学では建学の精神に基づく3つの教育理念を大事にして教育を行ってきた。そのあらわれとして、在学生アンケートでは多くの学生が本学の教育理念を認識していることが分かっている。履修要項にも従来から学科ごとに「教育理念・目標」とカリキュラム概念図が掲載されている。これらに加えて最近になって「人材養成の目的」「学位授与方針」「教育課程の編成・実施方針」などが制定されたため、学生・教職員の間に若干の混乱があることは否めない。

将来に向けた発展方策としては、これらの関係性を分かりやすく整理して履修要項に記載する。具体的には、本学の教育理念を履修要項にも記載するとともに、これに基づいて「学位授与方針」「教育課程の編成・実施方針」があることを明確に示す。その上で、学科ごとの「教育理念・目標」が定められていることを示す。

【DWCLA10の周知】

DWCLA10は、その公表初年度の12月の在学生アンケートにおいて、「とてもよく実感する」「よく実感する」の合計が38.5%であった。DWCLA10の基礎的・汎用的能力は、個々の科目

4 (1) 教育目標、学位授与方針、 教育課程の編成・実施方針

で身につくというよりも、4年間の集大成として身につけてもらいたい能力であることを考えると予想外の高率である。ただし、多くの学生に周知されているのは、公表直後であるために高率であるとも考えられる。そのため、将来に向けた発展方策としては、毎年学生に周知する努力を怠ることなくすることは言うまでもなく、「授業に真剣に取り組んだ結果として身につくDWCLA10」をさらに発展させて、「DWCLA10の能力を身につけさせることが目的である授業の開発」が必要である。そのような取り組みを含めてDWCLA10の目指すものを学生始め社会にもよりいっそう周知する。

〈3〉現代社会学部

学位授与方針および教育課程の編成・実施方針についての公表性を維持して、在学生や受験生等へのさらなる浸透を図っていく。

社会システム学科では、現代社会学会の活動の一部としての各種研究会活動について、社会システム学科の教員と学生は積極的に参加してきており、授業外の学びのサポートの充実を一層図っていきたい。

現代こども学科では、小学校教員採用状況、幼稚園教員採用状況、保育士採用状況を中心に、進路状況を学生が認識できる機会を、学年当初と卒業研究発表会の日に設けることにより、効果が上がっている。

〈4〉薬学部

現状の評価は進行中であるが、本年度、薬学コアカリキュラムが改訂され、それに対応したカリキュラム改正が求められている。現在の全学体制を有効活用しながら、理想的なカリキュラム構築を推進していく。

〈7〉文学研究科

学位授与方針および教育課程の編成・実施方針について高い公表性を維持し、在学生や受験生へのさらなる浸透を図っていく。

〈9〉薬学研究科

本年度、薬学コアカリキュラムが改訂されたが、これは当然大学院にも影響を与えるはずであり、研究科委員会で検討を開始する。

〈10〉生活科学研究科

生活科学研究科の各専攻では、学位授与および教育課程の編成・実施方針について高い公表性を維持し、在学生や受験生へのさらなる浸透を図っていく。

②改善すべき事項

〈1〉大学全体

【共通教育部分の教育課程の編成・実施方針の必要性】

全学共通科目については、本学では共通学芸科目区分、キリスト教・同志社関係科目区分、外国語科目区分、スポーツ・健康科目区分を設けて科目を設置し、それぞれに科目運

営委員会を設置して責任体制を明確にしている。教育課程の編成・実施方針は、基本的には学部学科等ごとに制定されるものであるが、これらの全学共通部分の科目区分ごとの教育課程の編成・実施方針についてもそれぞれの運営委員会で検討し制定する。

＜6＞生活科学部

人間生活学科では、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の記述方法などを点検し、問題点を抽出した上で修正作業を行う。

4. 根拠資料

- 4(1)-1 学芸学部（音楽・情報・国際・音楽専攻科）履修要項・シラバス（既出：1-8）
- 4(1)-2 現代社会学部履修要項・シラバス（既出：1-9）
- 4(1)-3 薬学部履修要項・シラバス（既出：1-10）
- 4(1)-4 表象文化学部履修要項・シラバス（既出：1-11）
- 4(1)-5 生活科学部履修要項・シラバス（既出：1-12）
- 4(1)-6 大学院履修要項・時間割表・シラバス（既出：1-13）
- 4(1)-7 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：学びのシステム：卒業までに身につけてもらいたい10の力
「DWCLA10」について」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/learning/dwcla10.html)
- 4(1)-8 同志社女子大学 大学案内2014（既出：1-5）
- 4(1)-9 同志社女子大学ホームページ（既出：1-15）
「大学紹介：大学の精神 教育方針：学部学科 教育方針」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/about/admission_policy/faculty.html)
「大学紹介：大学の精神 教育方針：専攻科 教育方針」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/about/admission_policy/advanced_courses.html)
「大学紹介：大学の精神 教育方針：大学院 教育・研究方針」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/about/admission_policy/graduate.html)
- 4(1)-10 同志社女子大学ホームページ（既出：1-17）
「学部学科・大学院：学芸学部：音楽学科：学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/liberalarts/music/introduction/index.html)
- 4(1)-11 同志社女子大学ホームページ（既出：1-19）
「学部学科・大学院：学芸学部：情報メディア学科：学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/liberalarts/media/introduction.html)
- 4(1)-12 同志社女子大学ホームページ（既出：1-20）
「学部学科・大学院：学芸学部：国際教養学科：学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/liberalarts/international/introduction.html)

4 (1) 教育目標、学位授与方針、
教育課程の編成・実施方針

- 4(1)-13 同志社女子大学ホームページ (既出: 1-21)
「学部学科: 大学院: 現代社会学部: 社会システム学科: 学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/social/system/introduction.html)
- 4(1)-14 同志社女子大学ホームページ (既出: 1-22)
「学部学科・大学院: 現代社会学部: 現代こども学科: 学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/social/childhood/introduction.html)
- 4(1)-15 同志社女子大学ホームページ (既出: 1-23)
「学部学科・大学院: 薬学部: 医療薬学科: 学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/pharmacy/clinical/introduction.html)
- 4(1)-16 同志社女子大学ホームページ (既出: 1-24)
「学部学科・大学院: 表象文化学部: 英語英文学科: 学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/representation/english/introduction.html)
- 4(1)-17 同志社女子大学ホームページ (既出: 1-25)
「学部学科・大学院: 表象文化学部: 日本語日本文学科: 学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/representation/japanese/introduction.html)
- 4(1)-18 同志社女子大学ホームページ (既出: 1-26)
「学部学科・大学院: 生活科学部: 人間生活学科: 学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/life/human_life/introduction.html)
- 4(1)-19 同志社女子大学ホームページ (既出: 1-27)
「学部学科・大学院: 生活科学部: 食物栄養科学科」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/life/nutrition_science/index.html)
- 4(1)-20 学科パンフレット (食物栄養科学科) (既出: 1-18)
- 4(1)-21 同志社女子大学ホームページ (既出: 1-28)
「学部学科・大学院: 文学研究科: 英語英文学専攻」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/literary_research/english.html)
- 4(1)-22 同志社女子大学ホームページ (既出: 1-29)
「学部学科・大学院: 文学研究科: 日本語日本文化専攻」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/literary_research/japanese.html)
- 4(1)-23 同志社女子大学ホームページ (既出: 1-30)
「学部学科・大学院: 文学研究科: 情報文化専攻」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/literary_research)

/information.html)

- 4(1)-24 同志社女子大学ホームページ（既出：1-31）
「学部学科・大学院：国際社会システム研究科：国際社会システム専攻」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/system_research/international.html)
- 4(1)-25 同志社女子大学ホームページ（既出：1-32）
「学部学科・大学院：薬学研究科：医療薬学専攻」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/pharmacy_research/pharmacy.html)
- 4(1)-26 同志社女子大学ホームページ（既出：1-33）
「学部学科・大学院：生活科学研究科：生活デザイン専攻」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/life_research/design.html)
- 4(1)-27 同志社女子大学ホームページ（既出：1-34）
「学部学科・大学院：生活科学研究科：食物栄養科学専攻」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/life_research/food.html)
- 4(1)-28 2012 年度 同志社女子大学 在学生アンケート 報告書（既出：2-18）